

前 橋 文 化

比刀祢

65号

事務局開設特集号



前橋総合運動公園『釣り池の桜と赤城山』

前橋市文化協会事務局開設特集号 ―もくじ―

巻頭言

前橋の芸術文化の充実・発展を目指した前橋市文化協会の挑戦

前橋市文化協会 会長 清水 和夫

特集座談会

◆挑戦―前橋市文化協会の今後の取り組み―

協会活動

◆臨江閣重要文化財指定記念事業「まえばし和の文化の集い」

◆第四十一回前橋市民芸術文化祭

ふれあい体験事業

茶道／華道／邦楽／大正琴／日本舞踊／剣舞／民謡民舞／詩吟／八木節／俳句・連句／美術／居合道／将棋／富士見支部

部会だより

書道／美術／写真／映像／茶道／華道／音楽／バレエ／邦楽／大正琴／日本舞踊／吟剣詩舞道／民謡民舞／八木節／郷土芸能／歴史／短歌／俳句／川柳／漢詩／演劇／自然趣味／民族舞踊／居合道／将棋／日本の名曲を踊る

支部だより

大胡支部／宮城支部／粕川支部／富士見支部

☆平成三十年度役員等名簿

☆平成三十年度賛助会員名簿

☆二〇一九年度第四十二回前橋市民芸術文化祭開催予定一覧

☆第五十三回市民展覧会入賞者一覧

☆お知らせ・新入会員紹介・比刀祢編集委員・編集後記

1 2 5 6 8 12 22 24 25 26 27

明説紙表

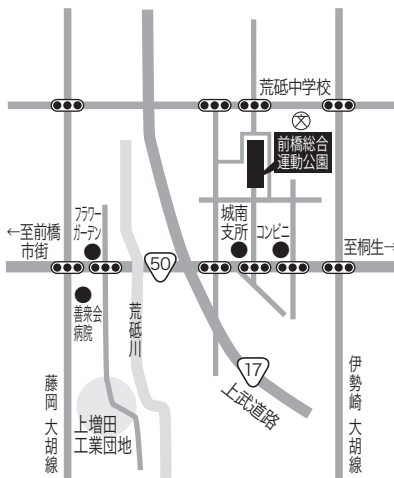
前橋総合運動公園

前橋総合運動公園は、市街地より国道50号を東方約8kmの城南公民館の東にある信号が前橋総合運動公園の入口で市民がスポーツを通じて交歓し合える場として昭和55年から整備をした運動公園です。

園内には、市民球場、テニスコート、陸上競技、サッカー場、コミュニティプール、釣り池、自由広場、軽スポーツ広場、など施設があります。

昭和58年に全国体育大会（58国体）が群馬県で開催され前橋総合運動公園のテニスコートがテニス大会の会場となり地元の人々クラブで菊花をつくりテニス会場に飾りこのテニスの全国大会の会場に昭和天皇がテニスをこ来観されました。

前橋総合運動公園内の釣り池には、桜の花咲く季節には釣りを楽しむ人々や各種スポーツ大会に利用する多くの市民に親しまれる前橋総合運動公園です。



題字…前橋市長 山本 龍

カット…美術部会会員

表紙…前橋総合運動公園「釣り池の桜と赤城山」

撮影・表紙説明…城南写真クラブ 藤生 武男

現在、前橋市文化協会には、二十六の部会と大胡支部、宮城支部、粕川支部、富士見支部の団体を含めた三〇〇ほどの活動団体があり、六、〇〇〇人余りの会員の皆さんが、それぞれの分野に所属し、明るく、健康的に芸術・文化活動に取り組んでいます。

広くて機能的な事務室を構えました。これに伴い、文化協会事務局体制も新たに組織改革し、専任の事務局長をはじめ、三人体制で芸術文化の振興・充実のための運営と活動を推進しております。

情報をビジュアルにかつタムリーに発信していくことにしました。このことにより、会員や若者層を含めた多くの市民の皆様との双方向の意見交換や文化交流を行い、開かれた芸術文化活動の推進に努めたいと思います。

六十五号を数え、前橋市文化協会の活動や事業を広く市民に紹介し、前橋の芸術文化の振興・発展に寄与しております。今後は、引継がれた伝統を重んじつつ、市民の皆様により読みやすく、親しみを持っていただけるような

連携事業としての前橋市民展覧会が主管する「市民展覧会」などの充実です。本年度からは、文化協会主催行事に参加する会員の不慮の事故等に備えての保険も組み入れております。

今後は、前橋市の先進的な

前橋市文化協会では、これらの市民の皆様への文化意識の高揚や伝統と質の高い前橋ならではの芸術文化の発展と充実を目指すして新たな取り組みに挑んでいます。

その一つが活動拠点となる専用の事務室の開設と事務局体制の見直しです。

平成三十年四月に前橋市民文化会館の二階の一室を全面改修し、文化協会専用の



前橋の芸術文化の充実・発展を目指した前橋市文化協会の挑戦

前橋市文化協会 会長 清水 和夫

協会独自のホームページの開設です。

平成三十年十一月一日から独自のホームページを開設し、市民の皆様をはじめ、広く芸術文化に親しむ多くの方々に、文化協会としての

三つ目は、昭和五十六年（一九八一年）の前橋市文化協会の設立とともに創刊された、会報「比刀祢」のあり方についての検討と見直しです。

会報「比刀祢」は、今号で

企画や構成に努めたいと思います。

四つ目は、前橋市と前橋市文化協会が主催する主な事業である「前橋市民芸術文化祭」、「まえばし和の文化の集い」、「前橋市総合文化祭」、

取り組みである「ふれあい体験事業」をより一層、拡充し、子どもたちや若者層への芸術文化に対する幅広い啓蒙と普及に努めてまいります。

前橋市文化協

会は、市当局や市民の意見を代表する議会のご支援・ご

協力や「アーツカウンシル前橋」のご助言をいただきながら、積極的な取り組みを進めたいと思います。

座談会

挑戦

前橋市文化協会の今後の取り組み

平成三十年十一月十二日(月) 前橋市文化協会事務局



齋木雄造 氏

齋木 本年四月に前橋市文化協会の事務局が、ここ昌賢学園まえばしホール(前橋市民文化会館)二階に新しく開設されました。そこで、本日は前橋市文化協会の今後の取り組みについて、皆様、それぞれのお立場から語り合ってくださいと思います。

出席者(敬称略)
 前橋市文化スポーツ観光部 部長 川端利保
 前橋市文化協会 会長 清水和夫
 前橋市文化協会 副会長 坂本 實
 前橋市文化協会 常任理事 田中寿々夢
 司会 前橋市文化協会事務局長 齋木雄造

高齢化への対応



坂本 實 氏

坂本 市町村合併の前は、前橋と合流することによって支部のレベルアップが図れると考えていたのですが、少子高

齢化の波を受けて粕川支部でも会員数の減少といった課題が見えています。また、新規加入も進まないといった現状



田中寿々夢 氏

田中 高齢化で文化協会を辞める人は多いのですが、入る人は少ないですね。人間関係で声をかけて誘うのが会員増につながるのではないかと思います。

もあります。

います。また、文化協会に気安く入れるような雰囲気があることも大切だと思います。
清水 高齢化については、是として認めていくことではないかと思うのです。歳を重ねていってもずっと文化協会に入っていたただけであればよいのではないのでしょうか。生涯文化活動が続けていくことが元気を保つもとです。



清水和夫 氏

坂本 高齢者への手助けを考
えなければなりません。展示
作品を運ぶのが大変で出品す
る人が減少しています。引退
を防止するためには、歳を重
ねていつても体の動く人が手
助けをして参加を促していく
ようにすることが必要です。

会報『比刀祢』について

田中 十年ほど前から『比刀
祢』の編集にかかわってしま
したが、少し変えるところも
あるのかなと思っています。
例えば、「部会だより」や「支
部だより」は、活動報告に加
えて、私たちの川柳部会なら、
この句はこういうところがよ
かったというような内容を入
れていけば、興味をもって読
んでもらえるようになるのだ
はないかと思っています。

坂本 俳句や短歌や詩などを

投稿するような欄を設けて、
それを先生がチェックしてく
れば、受け止め方が変わっ
てくるかもしれませんね。

田中 チェックするときは、
よいところを認めるのが大切
です。自分なりに好きになっ
てくれば自然に勉強するよう
になりますからそれを待つのが
一番です。

川端 今、『比刀祢』の話が出
ていますが、これは何かをや
りましたという報告書ではな



川端利保 氏

く、それぞれの部会の活動を
発信するツールであると思い
ます。行政でも様々な分野で
情報発信していくことを大切
にしています。

理解のし合い

江原 「市民音楽の集い」では、
群馬おきりこみ合唱団に特別
出演のお願いをして若々しい

歌声を披露してもらいました。
音楽部会では、みんなでみな
さんの音楽を聴きましょうと
いう取り組みを行っています。
みなさんがすばらしい演奏を
してくださるので、お客様は
最後まで残ってくださいとい
ます。このような取り組みは、
集客の上でも大変よいので、



江原満里子 氏

これからも続けてやっていき
たいと思います。

清水 自分たちの作品を発表
したり展示したり演奏したり
するだけではなく、鑑賞する
といった感覚をもつことは、
とても大切です。今、お話が
ありましたが、音楽部会で行
われている「理解のし合い」
といった取り組みは、どの部
会でも取り入れていただいても
よいのではないのでしょうか。
展示の場合ですと鑑賞会のよ
うなものを取り入れて、作品
の見方について部会の方が解

説などを行ってくださるとあ
りがたいですね。

江原 立派な芸術は、見る側
にとつては、なかなかそのよ
さがわからないものです。

清水 市民芸術文化祭のプロ
グラムを拝見しますと、解説
を載せてくださっているもの
があります。解説があつて見
たり聴いたりしていきますと、
大変よくわかります。

前橋と文化

清水 前橋は文化都市として
歩み続けてきました。そして、
市民の生活感覚も政治や文化
の中心である前橋に住む中で
育まれてきました。前橋に住
むことの意味を考えますと象



徴的なのは臨江閣です。臨江

閣は、市民の浄財によつて作
られました。だれが努力をし
たのかといえば、市民です。

一方、文学の面でいえば、萩
原朔太郎の世界は、前橋にし
かない世界です。そして、そ
れが今でも脈々と続いている
わけです。こういうものが大
切にされ、次の世代へと引き
継がれてきたのです。このよ
うに前橋のすばらしい文化を
つないでいくことは市の
大きな、行政の基本なのだ
という、そういう姿勢を市長
さんをはじめ市役所の方々は
お持ちになっています。

川端 力になるということな
のです。今、清水会長さん
がコメントした中で、いわゆ
るシビックプライドですが、
臨江閣の歴史を紐解いて伝え
ていけば、比較的わかりやす
いと思います。みなさん、シ
ビックプライドにふれながら
それぞれの分野で活動なさつ
ていらつしやるのだと思いま
す。こういったものを大切に
するのが前橋市民なのだと
思っています。

交流について

三村 文化協会の会員が集い合えるような雰囲気の場合がほしいなと感じています。また、文化協会と公民館との交流を深めていく必要性も感じています。以前は、市民芸術文化祭でいろいろな部会が交流していましたが大変よかったです。いろいろな人たちが交流し合うことを活性化に向けた道筋にできたらよいのではないのでしょうか。



三村悦子 氏

清水 交流を通してお互いが高め合ったりお互いの生き方にふれ合ったりするということとはすごく意味のあることです。そこで、交流を図る上で市民芸術文化祭、和の文化の集い、総合文化祭の開催に合わせて文化サロンの開催などを設け、そこに参加してもらう

ことを考えてみてもよいのではないのでしょうか。

坂本 支部の公民館で文化協会の人たちに何か公演してもらえようかなとできればと思っています。以前、粕川公民館でバレエを公演してもらったことがありますが大変好評でした。

清水 ある公民館の館長さんから「文化祭の中で何か一つ文化協会でやってもらえませんか。公民館活動をしている人たちにとって刺激になるから」といったお話をうかがったことがあります。

坂本 事務局の公用車を活用して支部文化協会の巡回をお願いしたい。また、支部の総会にも出席してもらいたいですね。支部の人たちにとって文化協会がもっと身近になると思います。それから、支部から指導者のお願いが出たら、快く応えてもらえたらありがたいですね。

清水 各支部の活動は地域の特徴をもつて取り組まれていますので、市民芸術文化祭のポスターにも明記し、支部の

方々が参加しやすくなるよう配慮することが大切です。

学校との連携

三村 川柳を地区の小学校の子供たちに募集する際には、何か許可が要りますか。

清水 教育委員会に話をしてその上で校長先生に話をすれば問題ないと思います。

田中 以前、子供川柳の募集で地区の小学校にお願いに行つて投句をしてもらったことがあります。

清水 子供たちが前橋に住んでいることのよさ、すばらしさ、文化財の建物の中に入つたときの心地よさや価値を知



ることができるような教育を進めていくことが大切です。その手がかりの一つが文化活動を学校が取り込むことだと言えます。また、臨江閣の価値を子供たちに伝えていく努力を進めることも必要です。そのためには学校と地域の人たちとの連携、協働が欠かせません。

これからの文化協会

川端 文化協会の今後の取り組み方を考えていきますと、どこに重点を置いていくか、どこに力を入れていくかを検討していく時期に来ているのではないかと思います。いろいろな考え方があるでしょうけれど、各部会の活動を活性化するという点については、みなさん共通した思いをもっているのではないかと思います。そのためには、若い人たち、次の世代を担っていただく会員を増やしていくことが必然的に出てくると思います。

田中 今、働いている人たちは、なかなか文化活動にまで手が回らないのではないのでしょうか。

は、なかなか文化活動にまで手が回らないのではないのでしょうか。

清水 働いている人たちはもちろんですが、その一歩手前の人たちの経験や体験があまりにも少ないために、働く人たちが働くことだけに入ってしまったという現状が見られます。そこで、高校生や大学生を含めた社会教育活動のひとつとしてボランティアなどの取り組みが行われています。文化協会でも若者のボランティアを募ることを考えていってよいと思います。また、今年ここに事務局を開設し文化協会の拠点ができたことによつて今回のような論議もできるようになりました。これは、前橋市から手厚い対応をいただいているからこそのことです。そして、アーツカウンシル前橋の方々にも一緒に考えていただきながら、動き出した私たちの挑戦をどう発展させていくか、これを本物にしていくための努力をしていかなければいけないと思っています。

臨江閣重要文化財指定記念事業

「まえばし和の文化の集い」

今年の八月、臨江閣が国の重要文化財に指定されました。前橋市にとって、そして、群馬県にとって、大変喜ばしい事でありました。第六回「まえばし和の文化の集い」は、これを受けて、国重要文化財指定記念事業の一環として開催いたしました。

開会式では、文化財保護課から臨江閣について、説明していただいたり、また、観光ボランティアによる臨江閣ガイドツアーも実施したりしました。多くの方々に参加していただき、臨江閣の歴史や文化遺産としての価値を知ることができ、貴重な機会となりました。

別館二階の大広間では、開会式に続き、「八木節部会」による明るく、華やかな演奏で

舞台発表が始まりました。その後、「民謡民舞部会」、午後には「大正琴部会」「邦楽部会」「居合道部会」の発表が行われ、いずれの舞台も見ごたえや聴きごたえのある発表で、たくさんの方々楽しんでいただきました。

別館と本館で行われた茶席は三席ありましたが、お客様が途切れることなく、終日大盛況でした。「茶道部会」の皆さんのおもてなしと気配りにより、混乱することなくその雰囲気を楽しむことができました。

また、別館一階の大広間で行われた「華道部会」による生け花展示では、前橋市文化協会に所属している十四流派の季節感溢れる素晴らしい作品が展示されました。お越し

いただいた皆さんに、伝統文化が感じられる空間を提供することができました。今年は、「まえばし和の文化の集い」実施の一週間前から、市役所のロビーに、華道部会長さんによる生け花が披露され、日々の暮らしがさらに豊かに潤うこととなりました。

今年度も晴天に恵まれ、入場者は延べ八百人でした。国重要文化財となった臨江閣にふさわしい「まえばし和の文化の集い」となり、大きな成果を得ることができました。市民の皆さんには、文化協会の誇る和の文化を楽しんだり味わったりしていただけたと思います。

本部役員さんをはじめ、関係者の皆さんのご尽力に深く感謝いたします。



芸術文化祭

平成三十年度第四一回前橋市民芸術文化祭は、平成三十年四月二十一日から平成三十一年三月十七日までの間、『華道展』『邦楽のつどい』『大茶会』『市民川柳大会』『歴史講演会』『市民短歌大会』『市民俳句大会』『ビデオ作品発表会』『民謡民舞発表会』『八木節のつどい』『吟剣詩舞道発表会』『自然趣味盆栽展』『日

本舞踊のつどい』『趣味の彫塑工芸絵画展』『短歌・俳句・川柳合同作品展』『漢詩発表会』『前橋バレエフェスティバル』『市民音楽のつどい』『フラフェスティバル』『郷土芸能大会』（前橋市教育委員会共催事業）『演劇発表会』『市民展覧会』（前橋市教育委員会共催事業）『総合文化祭』の二十三部門で実施いたしました。（それぞれの発表の詳細は、「部会だより」をご覧ください。）参加者と来場者数の合計は、約一万八〇〇〇人でした。



民芸術文化祭

つなぎ 文化をつむぐ～

各部門では、それぞれの部会がプログラムや舞台構成、演出・当日の運営等、すべてを自主的に行っていただきました。部門によっては、子供たちや高校生・大人までと幅広い年代の参加があったり、全国から参加者が集まったりと、それぞれの特色がよく出ていました。「当日、参加してよかった。」「見応えがあった。」「聴きにきてよかった。」と、お客様から感想を聞くことができました。この前橋市民芸術文化祭は、それぞれの部会においてはたくさんある活動

の一つですが、日頃の練習の成果が存分に発揮できた場となりました。出演された会員の輝く笑顔、長い時間をかけて、それぞれが心をつなぎ合い、高めてきた文化をさらにつむいでいく様子が感じられる、素晴らしい発表でした。

各部会長さんをはじめ、市民芸術文化祭実行委員、会員の皆様のご協力に心より感謝申し上げます。来年度の前橋市民芸術文化祭もますます盛り上がり、前橋市の芸術文化の向上・発展が図られることを願っております。

総合文化祭

平成三十年度前橋市文化協会総合文化祭が昌賢学園まえばしホール（前橋市民文化会館）にて行われました。

展示部門は、平成三十一年一月二十六日（土）・二十七日（日）大展示ホールで行い、美術部門二団体、書道部門一

団体、写真部門三団体、文芸部門三団体、華道部門一団体、合計一三四点が出品されました。また、当協会員作品のほか、昨年度の前橋市民展、書道・美術・写真三部門の受賞者の方々にもご協力をいただき、作品を展示しました。

舞台部門は二十七日（日）大ホールで行い、二十四団体の発表のほか、式典には前橋市立永明小学校の合唱団に参加していただきました。

第41回 前橋市 ～輝く笑顔 心を

それぞれの部門、各地域の特色ある展示・発表が行われ、各団体の交流を図る良い機会となりました。二日間、約一、六〇〇名を超える多くの方にご来場いただきました。

来年度は、地域文化フェスティバルとなります。充実した催しとなるよう、ご協力よろしくお願いいたします。また、今回ご参加いただいた各団体の皆様、関係者の方々は改めてお礼申し上げます。



ふれあい体験事業

茶道

この度は私共表千家流の担当でした。参加者つきそい家族共三十四名その他文化協会

アーツカウンシル前橋の方が、二日間見学に来て下さいました。子供達はまず靴をぬいで

上がる所からの行儀から始まり、ていねいな挨拶、軽い会

釈を説明し練習しました。続いて四〇〇年以上も続いてい

る茶道の話、日本間での戸の開け方、タタミの歩き方、床

の間の拝見の仕方、その後正式な点前^{てまゑ}を見てもらい、お

菓子を食べ箸の使い方、お

茶の頂き方で一日



を終りました。二日目はりっぱに挨拶も出来、点前の体験は二組に分かれ茶筌で茶を点て茶碗をもつて歩き、運ぶ次は入れ替ってお茶を頂く。とても行儀よく出来ました。

この体験が将来につながってほしいと思いつつ修了証を渡しました。 茂木 宗正

華道

体験学習いけばな教室

十一月三日午前中に、おこなわれた、体験学習いけばな教室では、小学生から大人の

方まで、

十六名の

参加で、

前橋元氣

二一で行

われまし

た。皆様



生け花は、初心者の方なので最初は、デモンストレーションを行ない、次にハサミの使い方、枝の切り方など説明をしその後、各自それぞれ器にお花を生け始めました。小学

一年生の方もおりましたが、最初に基本の生け方の説明をしてありましたので、皆様とても、上手に枝切なども出来ていました。一人一人の作品

を拝見致しましたが、あまり手直しもなく全員の作品がとても良く出来て居りました。又各テーブルごとに写真を撮し、全員の方が生けたお花を

そのまま喜んで持って帰りました。 清水 正子

文化を知り、箸のしくみや扱い方を体験できたと喜んでくれた事と、メロディの美しさに感動してくれた。発表会には、「前橋市のうた、赤城嶺に」と「こどもの春」を

邦楽

お箏実技体験教室

はじめての体験者で日本の



文化を知り、箸のしくみや扱い方を体験できたと喜んでくれた事と、メロディの美しさに感動してくれた。発表会には、「前橋市のうた、赤城嶺に」と「こどもの春」を

発表した。子ども達が、何に興味を持ち、何を求めているのか知ることができ有意義であった。義務教育に導入になつて16年もたつがまだまだ浸透していない。私たちに

役に立つことは何であろうか考えさせられる。呼ばれば、どこへでも伺います。 佐藤美弥井

長唄三味線教室 長唄千歳会は大人とこどもに分けてふれあい体験を行いました。大人は四月、五月の六回27名、こどもは六月、七月の十六回42名、にぎやかで楽しい教室でした。全員の方

長唄三味線教室

文化を知り、箸のしくみや扱い方を体験できたと喜んでくれた事と、メロディの美しさに感動してくれた。発表会には、「前橋市のうた、赤城嶺に」と「こどもの春」を

発表した。子ども達が、何に興味を持ち、何を求めているのか知ることができ有意義であった。義務教育に導入になつて16年もたつがまだまだ浸透していない。私たちに

役に立つことは何であろうか考えさせられる。呼ばれば、どこへでも伺います。 佐藤美弥井

大正琴

第六回文化協会主催のふれあい体験が前橋市総合福祉社会館にて六月二十四日(日)

に三味線をお貸しできたので家で練習の成果もあり、「荒城の月」「舞の合方」を上手に弾ける様になりました。

九月のこども芸能座では、いつにない真剣なこども達の顔と集中力に驚かされました。とても良くできて楽しかったそうです。

杵屋彌三右衛門





から九月二日(日)までの七回講習で実施された。大正琴部会も昨年に続き参加させていだきまし。今年を受講者は小学生一名一般の方十八名内男性二名の十九名でした。今回の練習曲は皆さんご存知の桃太郎、茶つみ、テレビでお馴染のアニメソングサザエさんの三曲でそれぞれ感じの違う曲です。初日は皆さん初心者なので、ピックの持ち方、指使い、間の取り方、トレモロの弾き方、返し弾き、休み記号等演奏するのに必要なことを説明した。二回目以後は曲を弾き初めた。活発に質問をされ回を重ねることに馴れてきて和やかな雰囲気になりました。指が動くようになりまし。七回の受講で三曲を弾けるようになるのは大変です。教え

る方も、教わる方も一生懸命です。九月九日(日)は第九回前橋こども芸能座の勉強の成果を見せる発表会が昌賢学園まえばしホールでありまし。大正琴以外の楽器も加わり豪華で楽しい演奏になりました。ご来場の皆様から拍手をいただき、発表会も楽しく尚関係各位の皆様感謝いたしす。岩井田みき子

日本舞踊

「日本舞踊教室」は今年で十七回目、初回体験者は立派な成人です。今年も小学生六名の参加で八月五日より八回行いました。日傘を使う童謡「絵日傘」



とお扇子を使う長唄「寿」の二曲をお稽古しました。日傘も扇子も紙と竹と糸でつくられた伝統工芸品です。はじめは扱いが心配そうでしたがすぐに慣れて嬉しそうでした。そして九月九日「前橋こども芸能座」十月二十一日「日本舞踊のつどい」に参加、文化ホールの舞台で揃って踊りました。客席からでは見えな

若柳 糸駒

剣舞

今年は大人数と子供教室に分けて行ないました。子供教室は連絡不十分な所があった目標にしていた前橋こども芸能座に参加出来る子が二人だけになったので、急遽、以前ふれあい体験に参加して現在も剣舞を続けている子供達



に応援してもらい無事に舞台を務めました。それに比べて大人教室は希望者が八名でした。が全員とも大変熱心で、出席率も良く八回の予定を十回に延長して文化協会主催の「吟と舞」に出演を目標に頑張りまし。演題は『日本男児』当日は「どきどきする！緊張する！」と言いながらも見事に踊りました。剣舞は刀の使い方が一番難しく一ヶ月や二ヶ月で会得出来る芸ではないので、これからも続けてほしいと思ひました。

高田 禎彰

民謡民舞

民謡民舞教室「塩ビ管で尺八を作って演奏しよう」昨年



和田 和子

の受講に続き今年も夫婦で参加しました。前橋プラザ元氣21、参加者は小学生を含めて二十名、昨年受講した人も数名いました。塩ビ管で尺八を作り音の調律呼吸方法五音の基本を学び音が出るまで大変でしたが皆さん一生懸命練習しました。曲目は「月」「チューリップ」「君が代」「北国の春」四曲吹ける人一曲マスター出来た人、それぞれでしたが全員修了証書を頂きました。九月九日昌賢学園まえばしホールにてこども芸能座が開かれ、ふれあい体験受講生九団体が舞台発表をしました。子供達のインタビューもあり「覚えるのはむずかしかった」「緊張した」でも楽しかったなど感想が述べられました。

詩吟

今年も「ふれあい体験事業」

詩吟教室を開講することが出来ました。七月一日～九月二日の七回を実施、参加者は小学生二名を含み九名でした。学習内容として詩吟の粹をあまり広げないでと考え、漢詩の符付けと吟じ方、和歌を一首学習しましたが参加者の皆さんは詩吟の歴史的なこと、流派のことや漢詩の意味など積極的な質問が多く、それに答える講師の話もはずみ、楽しく学習できました。



九月九日の「子ども芸能座」

では「不識庵機山を」を小学生が「九月十三夜陣中作」を成人女子が合吟参加しました。尚、今回の体験参加者は全員広報からの応募でしたので年々少しずつではあります。が体験事業の情報が広がっていることを実感しました。

倉持 聖心

八木節

今年、二年振りとなるこの教室に参加させて頂きました。二年前まで三、四年連続で参



加していたこの教室に再び参加ができて、大袈裟であるかもしれませんが、生きがいと感ずる程に嬉しく思いました。

この気持ちのお陰か、十月の前橋まつりに出演するという貴重な経験をさせて頂きました。市長様の前という大舞台は初めてで緊張しましたが精一杯やりきれて楽しむことができました。それは、分かります。それは、分か

りやすく適切に助言をして下さった偉大な先生方、共に練習に励んだ方達の存在があったからです。皆さんには感謝しかありません。

田村 果穂

俳句・連句

初心者俳句実作教室

六月十六日、七月二十一日（各土曜日）に第三コミュニティ



ティーセンタールで開催された。

十五名の参加者があり、初日から俳句会の進め方を学び、俳句というものはどのようなものかを味わって頂いた。参加者の戸惑いも見えたが、楽しく一日目を終了した。第二回目からは外に出て、吟行をしながら俳句の作り方を学んだ。「幸の池」に集まり利根河畔まで足を伸ばし自然を観察しながら俳句の作り方を学んだ。午後からは俳句会を楽しみ終了した。

栗原 保幸

連句実作教室

連句実作講座は六月二十日

美術

と七月十八日（各水曜日）の二回に亘り中央公民館に於いて開催しました。新人も交えて二日間四巻を仕上げました。経験者も大分馴れて新人への心遣いもできてきました。又、出来上がった作品についても市民文化祭の合同作品展に出品し、多くの人の目に触れ、楽しんで頂くことができました。これからも是非参加して頂きますようお願いしております。

新部とし子

平成三十年度の「ふれあい体験作品づくり」は十一月十日（土）昌賢まえばしホール（前橋市民文化会館）で開催されました。

前橋市教育委員会の協力で、学校と市文化協会の連携事業として、学校と地域芸術文化の交流となる体験学習が今回四回目となりました。

市立一中、東中の生徒、顧



問の先生方、二十一人の参加の他、一般市民の参加や見学もあり、和やかな雰囲気でも年の干支「亥」の和紙絵、コラージュを制作しました。

生徒たちは積極的に取り組み、各々個性を発揮した作品が完成し、達成感を感じられたようです。今後、この体験を生かして創造性を高める一助となればと期待しています。

渡辺 正義

居合道

ふれあい体験教室は六月三



日、六日A.L.S.O.K群馬武道館で開催され、十名の方に参加いただきました。「参加してみよう」というきっかけを話していただいたり、居合の歴史や意義のディスカッション、続いて稽古参加。「刀は以前から所持していたが使い方がよくわからないので勉強にきました」という方や、「サムライの文化に触れたい」などお話しいただき、皆さん実演に期待しているようでした。稽古では作法、刀の握り方、抜き方振り方の基本動作を修得してもらい、居合の型の技「順刀」に挑戦してもらいました。

居合を通じて「己の精神と向き合う時間が持てた」と思ってもらえることがねらいの体験教室でした。

吉田 努

将棋

十月二十七日(土) 晴天の秋空の下、昌賢学園まえばしホール(通称シブン)にてベースオンザグリーンの一コマとして将棋部の「ふれあい体験事業」をさせて頂きました。

ベースオンザグリーンの活動は眠っている公共施設の緑を活用しようというものです。

将棋部としては前橋市のラジオ局Mウェーブの人気パーソナリティ青柳美穂さんを迎えて「初心者も楽しめるトークショー」を中心に来場者を交えての「詰将棋」などを2時間に渡り行いました。

子供達が熱心に時には大人顔負けの解説をして「詰将棋」



を大盤を使って楽しんでいました。これは子供達が必然的に人前で発表する、まさに「ふれあい体験」そのものです。

石原 隆行

富士見支部

この事業は当支部で実施されるのは始めてで、支部の参考にしてみようと共に、地域の歌の好きな人にも歌を基礎から学ぶ機会になればと企画しました。

九月十月の全四回富士見公民館ホールで延べ一七一名の参加で開催しました。



講師には大胡支部長の阿部淑美先生にお願いしました。「まっかな秋」「秋の子」「エーデルワイス」を課題曲に講師は歌い方の良し悪しを具体的に示し、メリハリの効いた指導をしてくれました。そして最終日にはなんと二重唱まで到達しました。この体験事業をきっかけに新会員が五名増えました。教室の成果を十一月の富士見支部文化祭にこの新会員と共に舞台に立ちました。

白石 博己

部会だより

書道

書道部会としての活動は、

前橋市民展です。今回は第五十三回展とすばらしい歴史を感じます。展示期間は三月十四日から十七日まででした。

三月九日の受賞後、ロイヤル



ホテルで書道部の祝賀会を百二十二名が参加し行いました。各団体の入賞者を紹介させていただきます。

- 淡遠書道院(代表 岡庭修) 前橋市長賞：神宮明日子。市教育長賞：萩原真信。朝日新聞社賞：角田まさよ。読売新聞社賞：松村信枝。優作賞：伊藤啓子。奨励賞：十名。
- 艸玄会(代表 新井柊雲) 毎日新聞社賞：中 一恵。奨励賞：一名。
- 書泉会(代表 下谷洋子) 市民長賞：青木玉枝。群馬教育振興会長賞：榎田和子。奨励賞：五名。
- 翠書道会(代表 村田容子) 市議会議長賞：長山美恵子。前橋商工会議所頭賞：川崎照

子。上毛新聞社賞：小野芳枝。エフエム群馬賞：塩谷廣美。奨励賞：七名。

● 三友社(代表 飯嶋和子) 奨励賞：一名。

● 春番会(代表 田村筆舟) 東京新聞社賞：井上智代子。奨励賞：四名。

● 秀水會(代表 大井美津江) 知事賞：阿部 篤。県教育長

賞：荒木瑞穂。奨励賞：四名。

● 三島会(代表 三島安亀) 産経新聞社賞：和田悦子。奨

励賞：三名。

● 廣瀬会(代表 大川清子) 優作賞：一名。奨励賞：一名。

● 墨竹会(代表 竹内照代) 市文化協会賞：櫻井恭子。群

馬テレビ賞：太田克子。企業メセナ賞：宮川由紀子。優作

賞：熊井弘子。奨励賞：八名。以上です。

本年度の書道部門の総出品点数は五五〇点でした。

大井美津江

美術

美術部会は、彫塑・工芸・絵画の四団体で構成され、平



成三十年度「趣味の彫塑工芸絵画展」が、十一月九日(金)

から十一日(日)の三日間昌

賢学園前橋ホール(前橋市民文化会館)で開催され日頃の

活動成果の作品を展示発表し、

市の芸術文化の向上に努めています。

今回は、「芸術倶楽部えのぐの会」の紹介をします。この

会の名称は、芸術分野の多岐にわたる創作活動を取り入れ

たいとの趣旨から命名され油

彩画・パステル画・和紙絵写

真等に取り組んでいます。会

の構成メンバーは、現役世代

からシルバー世代まで世代間

の交流を持ちながら、一緒に

学んでいます。主宰者の渡辺

代表のもと、各会員の個性を生かした懇切丁寧な指導で初心者から数十年経験のベテラン会員まで共に活動し、自由な雰囲気の中で、得意分野を互いに教えあい学び、切磋琢磨しています。

市民芸術文化祭では、一年間の活動の集大成として会員全員で参加し、発表の場としています。また、地域の文化祭等にも参加させて頂いています。

会の活動拠点は、前橋市第三コミュニティセンター(教育プラザ内)で、毎月第二・第四土曜日午後一時から五時まで例会として行っています。

絵画を通した会員同士の交流や心豊かな時を過ごすことで創作活動も継続できていると思います。題材は自由ですが、作品を鑑賞していただいた方の心に残るような作品ができるよう日々励んでいます。

渡辺 幸江

写真

当団体(全日写連前橋支部)

の活動の一端を発表する。

毎月一回、第一水曜日の夜、月例会を行っている。会員各自、最近の作品を持参、発表する。持参公開された作品について、会員全員の投票に依り順位をつける。そして、その作品についての講評が行われる。又、その作品完成までの楽しさや、苦労話も聞くことが出来る。被写体についての情報やニュース等が話し合われる。そして、話がまとまれば全員参加の撮影行となる。山・高原へ、又、身のまわりのイベント等、あらゆる被写体に注意して、カメラを向けてガンバロウ!!

船津 文男



映像

主な活動を報告する。初め

に一月例会では新年会を兼ね乾杯後、二分間映像作品「私の年賀ビデオ」を発表。個性溢れる映像作品発表とユニークな近況報告に自己紹介絡め新年度のスタートを切った。第四十一回前橋市民芸術文化祭映像部門「ビデオ作品発表会」を群馬會館二階で七月実施。前橋ビデオ研究会から十四本、南橋ビデオクラブから三本、芳賀ビデオクラブから三本、計二十作品が四季織りなす自然景観や地域の伝統文化や祭り、国内外の旅行記、子等の成長記録、舞台発表など多岐にわたる。来場者は市内外から二百五十人を超える来場を頂き、発表会終了後、一階大理石の大広間で茶話会を初めて実施、参加者85人が「線路は続くよどこまでも」と「手のひらを太陽に」唱和後、来場者からの感想文33人を発表。作り手と鑑賞者の立場から意見交換を行い出席者同士の交流を図った。秋には

月例会
使用会



場の前橋市中
央公民館文化
祭に参加、二
日間、日間に
わたり3D
カメラとDV
D一体型プロジェクターを持込み、来場者に会員自作映像作品と群馬會館発表過去三年分の作品を上映、来場者と会員の交流を図る。最後に県庁28階会議室で県民リポーターパネル展&県民リポーター交流会で活動報告を発表、映像作品は沢山のメッセージを瞬時に伝えるメディアです。テーマに即した構成、言い換えれば「物語性」が不可欠。撮影者独自の着眼点と、自身が見つけた発見と感動を素直にまとめることが映像作りの原点と発表した。

佐藤 利一

茶道

平成三十年二月五日(月)、市総合福祉会館にて前橋茶道会総会が開かれ、三十年度の事業計画が議事となりました。村田敬一先生の「臨江閣の建築美」講演が続きました。

五月十三日(日)、市民文化祭大茶会が臨江閣で開催され、各流派九席の茶席に大勢の方々が席入りされました。

十月二十一日(日)、県茶道大茶会は前橋支部が担当し、臨江閣で開催されました。県内の各流派に学校席も加わり全九席が設けられました。前橋支部からは、表千家、江戸千家、一茶庵の三席が担当、大勢の方々が一日賑わいました。

十月二十三日(火)、前橋茶道会研修旅行が行われ、千曲市稲荷山宿重要伝統的建築群を散策し、須坂市豪商田中家を見学、栗の町小布施を楽しむ旅でした。

十一月十日(土)、臨江閣で和の文化の集いが催され、表千家、江戸千家、小堀遠州の釜がかかりました。晴天に

恵まれ、予想を越える沢山の方が茶席の風情、茶道の文化を堪能されたことと思います。

十一月二十四日(土)、二十五日(日)、前橋元氣21茶室に於いて、小・中学生を対象にふれあい体験教室が開かれ、表千家が担当となりました。日本伝統の茶道の心と基本の所作を子供達は興味と緊張のなか一心に学んでいきました。

毎月十五日(例外あり)に開かれる、市民の茶席は市民の皆様も多く参加されました。

十一月二十六日(月)、群馬ロイヤルホテルにて恒例の忘年会が開かれ、アトラク



シヨンのアコーディオン演奏
を楽しんだ一日となりました。

矢部 宗芳

華 道

「前橋市民芸術文化祭華道展」が四月二十一日（土）～二十二日（日）の二日間文化会館大ホールで開催され十四流派の力作が明るく広々とした会場に春の彩りを添え約千二百名の来場者をお迎え致しました。

七月二日は定期総会を第二コミュニティで行いました。各報告計画等審議し総会後二胡奏者の秋山さくら先生をお迎えし二胡の哀愁の響きに引き込まれ感動を致しました。

十一月三日は前橋プラザ元気21会場であい体験教室を国風華道会と華道家元池坊が担当しました。小学生から大人まで自由に参加出来いけばな魅力を楽しむ体験が出来たのではないかと思います。

十一月五日から九日迄市役所のロビーで作家協会長がいけばなを展示し和の文化のつ



どいのスタートとなりました。市役所を訪れる方々が花を見て心豊かな気分になっていたのだと思います。和の文化のつどいは十一月十日臨江閣洋間にいけばなを十四作各流派一作ずつ展示し秋の花を鑑賞して頂き好評のうち終了しました。文化財の建物の中に展示出来る事は活け手も緊張します。また、前橋駅構内の飾り花は一年を通じ会員が交替し四季の花を心を込め展示しています。

いけばな作家協会は来春70周年記念華展を計画し只今準備を着々と進めています。

これからいけばなを通し地域と密着し伝統文化の普及発展の為努力をしていきたい

と思っています。

佐竹 理恵

音 楽

21団体で構成されています。

十一月に「市民音楽のつどい」を実施しています。どの団体もこの演奏会に向け、日頃から練習に励んでいます。

コーラス団体が多いですが、その他では「前橋市児童文化センタージュニアオーケストラ」と「バースマンドリンククラブ」と「前橋土笛の会」の三つの器楽の団体があります。

秋の「市民音楽のつどい」では「前橋市児童文化センターオーケストラ」は小学校1年生から高校2年生までの64名が、美しい活き活きとした弦楽合奏で、好感のもてる演奏でした。混声合唱団「すいせい」と「はなぶさ合唱団」は、清水昭先生を指揮者として、東京から迎え入れています。音楽の組み立てが上手で、思わず引き込まれます。

「前橋女声合唱団」は唯一のア・カペラ合唱団で、無伴



奏のルネッサンス期の演奏を得意とし、今回は日本のア・カペラ曲で「箱根八里」等も歌いました。ア・カペラ曲は純粹で透明感があり、会場はシーンとした静寂に包まれます。「前橋土笛の会」の清潔な演奏も緊張感のある新鮮な雰囲気を作っています。

今回初の試みですが、合唱コンクールで優秀な成績を修めている「群馬おきりこみ合唱団」を特別出演にお招きしました。群馬大学音楽専攻卒業生を多く含む若い人々の集団で、活気溢れる歌声で大きな刺激を与えて下さいました。

最近お客さんが沢山会場に

来て下さるようになり、充実した音楽会となりました。

山田 哲夫

バ レ エ

長年の間バレエ部会は七団体で参加し催して来ましたが一昨年に一団体が退部され昨年一団体が参加されて昨年度は六団体での開催となりました。今まで出演者数のわりには観客数が少ない事が気掛りな点でしたが、今回は新しい団体が加わったことでどうか賑やかな声援も飛ぶなど、活気を感じられる催しとなったようで喜ばしいことだと思います。

また文化協会が後押しして下さる活動の場として総合文化祭やふれあい体験事業などがあります。今まではあまり積極的に取り組もうとする団体はありませんでした。けれどこれからは個々の力だけでなく部会としてより多くの方々にバレエやダンスをより身近に楽しんでいただく為

邦 楽

今年度の大きな行事は三つ。

一つは、五月六日(日) 昌

賢学園まえばしホールで開催の「第41回邦楽のつどい」。

市長、文化協会長のご臨席をいただき、市長さんからは、

「二〇二〇年のオリンピックには、一六〇の国から参加者を迎える。誇りをもって見せ

られる「和の文化」を大切に」。文化協会長からは「昨年の臨

江閣リニューアルオープン記念行事での邦楽部会参加による盛り上げへのお礼、オリン

ピックに向けての一層の研鑽と和の心の育成を」の挨拶があった。箏・尺八の演目は、

「北海民謡調」「時鳥」「365日の紙飛行機」「八重垣」「四

つの袖」「箱根八里変奏曲」「編曲長唄越後獅子」。古典物から新曲まで多彩であった。琵琶は「屋島の誉」、長唄は「勧

進帳」、能楽仕舞は「西王母・鞍馬天狗・羽衣」。

多分野からの格調高い演奏・演技に来場者からも喜んで頂けた。

以上昌賢学園まえばしホール

室賀 孝子



二つ目は、六月二十八日群

馬県生涯学習センターに於ける県文化協会連合会総会のア

トラクション出演。古典からは「六段の調」、地元関係の

曲として「八木節スケルツォ」。なじみの曲として「花

は咲く」を演奏した。

三つ目は、十一月十日(土)臨江閣での「まえばし和の文化のつどい」への参加。国重

要文化財指定のお祝い曲として、「六段の調」「地唄七福神」

「長唄鶴亀」を発表した。

各出演社中・観客・関係者の協力を得て満足の演奏で



あったと自負している。感謝。

及川 清流

大 正 琴

第六回、和の文化の集いが

秋晴れのさわやかな十一月十日、臨江閣別館二階の大広間

において開催されました。午後の部のオープニングを飾ったのは、大正琴部会の演奏で

した。出演者十名は、やや緊張しながらも、誰もが知って

いる「桃太郎」の軽快なリズムでスタートしました。会場

の参加者からは、大正琴でこのようなお伽噺の演奏も?と、

その意外性に不思議な表情をみせる人もいました。続いて

「茶つみ」さらには、長谷川待子原作により、テレビや映画で放映された、おなじみの

「サザエさん」の曲が流れると、会場から手拍子も加わり、な

ごやかな雰囲気になりました。た。「ふるさと」の曲は、子

どもさん連れのお母さんから温かい拍手がおくられ選曲が

よかったですと思いました。全七曲を見ごとに演奏し、出演者

もホッと

した様子

をみせる

とともに、

会場を訪

れた人た

ちを心豊

かに魅了

したよう

に思いま

した。

当会は、

岩井田み

き子先生

の熱心な



指導を受けて、初心者から、

十数年と大正琴に取り組んで

いるベテランまで、今回は十

名余の人たちの演奏でした。

全員が心をひとつにあわせて

を合言葉に、本年八月十七日

に国の文化財に指定された素

晴らしい歴史をもつこの会場

ちが鮮やかに演じ続けて下さることを願う一日でした。

安斎紀代子

日本舞踊

平成三十年度第四十一回前橋市民文化祭の日本舞踊のつどいは十月二十一日雲一つない穏やかな日曜日に開催されました。来賓のご挨拶の後に番組に入りました。

平成三十年度ふれあい体験日本舞踊教室参加者 一、童謡絵日今 長唄寿 佐藤真綾 須田めい 関口英理華 長澤望愛 西尾友里子 山田幸花 二、清元北州 花柳秀美冷三、長唄大津絵一藤娘一西川扇富珠 四、清元青海波 花柳美緑治 五、義大夫団子売り 杵造坂東紫希奈 お白坂東仙紫郎 六、長唄 七福神 花柳喜生香 七、箏曲 茶音頭 若柳糸駒 以上各流派の皆様の出演でした。番組も順調に進み無事に終了する事が出来ました。今回の番組はその時代の流れの良き風情ある曲でまとまりました。

ふれあい体験教室の皆さん的一生懸命に踊る姿は見えても心を打つものがあります。体験をした生徒さんの中



で一人でも思い出して舞踊に親しんで下さればと願う次第です。未来に向かって進んで下さればと思います。

次回四十二回日本舞踊のつどいは来年十月二十日になります。部会の先生方で皆様方に楽しんで頂けるような曲目を考えて下さる事と思います。

西川扇富珠

吟剣詩舞道

平成三十年十月十四日(日)

第四十一回前橋市民芸術文化祭剣詩舞道部会が前橋市民



文化会館大胡「シャンティ」ホールにて天候にも恵まれ会場も満席のお客様に応援して頂き無事終了する事が出来ました。式典に始まり一、剣舞二題。二、構成吟、三、剣舞二題、四、ふれあい教室の子供達が日本男児や白虎隊。その他等で会場から大きな拍手を頂き感動致しました。五詩舞三題。六構成吟。七詩舞二題。八吟詠八題。九詩舞二題。十華麗なる吟と舞では詩舞。歌謡吟。剣舞と各団体が特色のある技をご披露して頂き日頃の努力を垣間見る事が出来ました。最后是全員で「富士山」を大合吟し、「パンサイ」をして閉会となりました。皆様

民謡民舞

昨年度は、前橋芸術文化祭民謡民舞会第四十回記念事業として、昌賢学園前橋ホールに於いて、ゲスト出演を迎え、盛大に開催することが出来ました。

今年度は七月八日に四十一回民謡民舞会の発表会が文化協会主催、民謡民舞会主管で開催することが出来ました。

文化協会長、市長よりご祝辞をいただき十時より開演することが出来、部会のテーマソング、前橋おどりを、会員有志の方にオーブニングに相応しく賑やかに唄って踊っていただきました。

第一部「少女少女の部」十二名の少女少女が声高らかに唄い踊り、入場者の心を癒し



てくれました。第二部は、全会員の発表で、全国の民謡民舞を唄に器楽に踊りに、日頃の練習の成果を思う存分発揮し、楽しく演じていただきました。第三部は各会代表者の演技を披露して頂き、昨年同様大勢の人に来場いただくことが出来ました。

文化協会主催のふれあい体験事業では、昨年に続き「塩ビ管で尺八を作って演奏しよう」市広報にて募集していただき、二十名の受講者に参加していただきました。台風のために一日延期がありました。が全行程を終了し、九月九日、子供芸能祭にも参加させてい

ただいた。

昨年に続き前橋まつりには踊り部会、各社中も参加し祭りを盛り上げてくれた。

三十年代最後の総合文化祭へも参加予定しております。

鈴木二千六

八木節

八木節について説明は第六十四号でくわしくのせてあるので今回は少し変えまして、初めに私と八木節と云う心を動かした事について書かせて頂く事に。昔子供が小学生の頃主人の転勤で月夜野で生活した事が有り、その夏ごかん



の駅前にやぐらが立ち夏祭りの夜。調子の良い八木節の音近くに行くとおどり子が傘やせんすを上手におどる姿は何とすばらしい。後で聞くと太田の方々とか。これが忘れられない私前橋へ帰って市民になると八木節協会がある事を知り何とか入会し練習をと

知人に頼み手にまめを作りな

がら練習を重ね二十三年まだ

まだ奥の深い事を知り又人間

関係の良い心の温い人達の集

まりである事を知り地域の人

達と健康増進のためとして練

習を重ねている。前橋協会の

会議は第一水曜日。練習日第

二第四水曜日。どちらも第二

コミニティで夜七時より。

大きな行事。元旦マラソン寒

い朝女性に参加する勇気を出

し楽しい一年が始まる。沢山

ある行事の中花見。総会。八

木節のつどい。前橋まつり。

秋農協まつり。忘年会。まだ

他の行事に参加する方も居ら

れる。人気ある前橋八木節協

会の中の会員には県議、市議

も沢山入会しており一チーム

出来るんではと忘年会には話

題も出た程楽しい協会です。

八木節はおどつても楽しいし

又おはやしも楽しいもの。心

と体楽しくなり健康第一のも

のだと思います。手踊りは特

に楽しいもので詩吟で全国へ

行くと夜は必ずおどります。

両方おぼえて良かったと感謝

しています。

松本 雅子

郷土芸能

平成三十年十二月八日(土)

に、第四十六回前橋市郷土芸

能大会を昌賢学園まえばし

ホールで開催しました。今年

の公演は市内の本会加盟団体

より、駒形神社太々神楽(駒

形町太々神楽保存会・立石

の鳥追い(総社町立石子ども

会)・新前橋祭りばやし(同

保存会)・大友町百万遍祭

(大友町百万遍保存会)・立石

諏訪神社の獅子舞(立石獅子

舞保存会)の五団体が出演し

ました。更に近隣市町村から

の招待公演として吉岡町の溝

祭獅子舞(同保存会)の皆様

にご出演いただいたほか、新

たな試みとして県立勢多農林

高校郷土芸能部の皆様にもご

出演いただき、合計七つの公

演が繰り広げられました。

溝祭獅子舞の皆様による

「沢の平」、「剣の舞」おいと

まの舞」、勢多農林高校郷土

芸能部の皆様による「上州八

木節音頭」は、いずれも日頃

の鍛錬の成果を発揮された勇

壮な演舞に、会場が大いに沸

き立ちました。一方市内から

出演の各団体も、特色を活か

し工夫を凝らした公演で、舞

台を大いに盛り上げてくださ

いました。場所や時間に制限

がある中での公演にはご苦労



もあつたことと思いますが、

このような経験も糧に、今後

の伝統継承に努めていただけ

ればと思います。

公演終了後には恒例の抽選

会も行われ、大変盛り上がり

ました。ご協賛いただいた企

業・団体の皆様に感謝申し上

げます。今後も地域文化の振

興や、郷土芸能の保存・継承、

啓発を目的として、活動を進

めて参りたいと思います。

井野 誠一(前橋市郷土芸能

連絡協議会会長)

歴史

平成三十年六月二日(土)

第二十二回歴史講演会を前橋

市第三コミュニティセン

ターを会場に、群馬県立歴史

博物館深澤敦仁学芸係長を講

師に迎え「まえばし古墳今昔

物語」と題して講演して頂き

ました。多くの人々が出席し

拝聴したなか、一、群馬県内

の古墳の数について、その調

査のきっかけについて、又こ

の調査は他県に比べ先進的で

あること。二、前橋の古墳が

造られた年代をたどると造られた地域が移っている。三、古墳の形、大きさが年代の変遷により変化していること。四、群馬という地名の由来が古墳時代にまでさかのぼること。など前記の項目を具体的に分かりやすく話されました。古墳は身近にあり意識せず眺め、群馬の名称は当たり前のことく使っているのが古墳や群馬の地名の由来について新たに理解をし再認識しました。

その他、平成三十年四月二十五日に群馬県立歴史博物館において「信長と上野国」をテーマに企画展が開催されており、織田氏と本県の関わり、書状が多数と南蛮胴具足、



唐物肩衝茶入り「初花」、長篠の戦いを題材とした「長篠合戦図屏風」など興味深く見学し、その後織田家ゆかりの小幡に行き織田家代々の墓地、大名庭園の楽山園を見学しました。平成三十年十一月二十七日に中之条町ミューゼに行き館長の説明で見学、続いて八ツ場ダム建設現場に行き、説明員の説明で建設状況を見学、その後名胡桃城址見学でボランティアガイドから沼田城の北条氏と名胡桃城の真田氏争奪について説明を受けた。

吉澤 信明

短歌

第五十三回前橋市民短歌大会は平成三十年六月十日（日）前橋市中央公民館前橋プラザ元気21・五階学習室で開催された。出席者は四十九人（出詠は五十一名）であった。

開会式では、山本龍前橋市長並びに清水和夫前橋文化協会長のご臨席をたまり、「前橋の文化活動の更なる充実のために力を尽くして貰いたい」

とお言葉を頂いた。

続いての総会では、議長を井田会長が務めて、事業報告、会計報告、事業計画案、予算案が審議され、承認された。

歌会は、各人が六首を選出する互選方式。その集計された得点数の多い上位作品に対して合評がなされた。

講師は井田金次郎、小林功、平山勇の三先生が担当、サークルや結社を越えた勉強のできた一日となった。

上位入賞者は次の通り。

市長賞 荒木さわ子
吾が街の廃校になるとふ校庭に遊べる子らに桜舞ひ散る
市議会議員賞 久保田桂子
新刊書の手ざりは匂ひ捲る音



ネット書籍で得られぬ至福

教育長賞 平山 勇

帰り際に子がそつけなく言ひたりし「歳なんだから無理をするなよ」

文化協会会長賞 白井 淳一

玄関の扉押しあけパタパタと
駆け寄る幼光のごとく

上毛新聞社賞 岡田 正子

えこの花白く散り敷く木の下
に歩き初めたる小さき靴二歩

俳句・川柳との合同作品展

は十一月十七日（土）・十八日（日）、昌賢学園まえばしホール（市民文化会館）大展示ホールで行われた。

平山 勇

俳句

第三十八回前橋市民俳句大会が六月二十四日（日）に中央公民館ホールにおいて開催されました。恒例の募集句も例年以上の応募があり、十四人の選考委員の厳正なる審査の結果、市長賞を始めとする各賞が選出されました。又、当日の参加者全員による俳句会も行われ、最優秀賞、優秀

賞が互選の結果選ばれました。恒例の前付けも参加者全員によつて楽しい作品が発表されました。

第二回まえばし小中学生俳句大会を開催。三千七百通の応募がありました。選考委員による点数制に審査方法により最優秀賞各一人、優秀賞各二人、佳作各十名の入賞が決定した。入賞作品集を作製し、入賞者と、各学校に配布した。また、小中学生による俳句実作講座を前橋市児童文化センターに於いて開催し、十八名の参加がありそれぞれに作品を創り発表し俳句会を楽しんだ。思いもよらぬ作品ができたようで大喜びであった。



第四十一回短歌・俳句・川

柳合同作品展が十一月十七日（木）から十九日（日）まで前橋市民文化会館において開催されました。展示数も昨年並みでした。連句の作品として前橋市民俳句大会の入賞作品と「前句付」、そして、日頃連句会で巻き上げた作品を展示。二回目の小中学生の入賞作品も展示することができ、来場の方の目を引いておりました。

小畑 吉克

川 柳

エンピツ一本さえあれば、人間を存分に描ける川柳。生きる喜び苦しみ哀しみなどを心と地肌を通し、十七音字に詠んでいく川柳。その世界をこよなく愛する人達により、**第三十八回前橋川柳大会**が、五月二十六日（土）昌賢学園まえばしホールで開催された。

近県や県内はむろん、九州や石川県からの参加もあり、清水文化協会長からの一句も頂くなど、大いに沸いた。

上位受賞者と天位句

市長賞 上村 脩

市議会議長賞 中西 隆雄

教育長賞 篠原 ゆみ

文化協会長賞 西潟賢一郎

川柳会長賞 横田 朝子

「癒す」 ありがとう言えて心に花が咲き 篠原 ゆみ

「空白」 日和見が過ぎて空虚なエピソード 上村 脩

「妙味」 官僚の記憶自在に色を変え 栗原 洋子

「彫る」 三猿を彫れば陥る人嫌い 織田 和子

「弾む」 音の無い世界で弾む愛の手話 加賀谷日和

「脱皮」 砂を吐くことも覺えて人になる 田中寿々夢

「野心」 地獄見る覚悟で挑むサバイバル 中西 隆雄

「からくり」 人間のからくり吠えている埴輪 真島久美子

第四十一回前橋市民芸術文化祭が十一月十七日（土）十八日（日）昌賢学園まえばしホールで開催された。

色紙・短冊六十点の作品はそれぞれ、句意に合った字や絵などで味わいが出され、見る人に、笑いや領きを誘うものだった。ただ、せつかくの



市民芸術文化祭、お互いの感性を磨く為にも、より多くの部会共催をお願いしたい。

三村 悦子

漢 詩

第四十一回前橋市民芸術文化祭の一環として第二十五回漢詩部門の発表会が、平成三十年十一月二十九日（木）に前橋市第三コミュニティセンターホールで午後二時〜四時迄、近年にない多数の来場者を迎え開催されました。第一部式典の部では、前橋市長様（代理川端利保部長様）、また文化協会々長清水和夫様が、主催者の立場から良く理解分

析され、協力を約束との心温まるお言葉を頂きました。当

会会長、阿部心靡より挨拶、

前橋市市議会議長三森和也様より過分な御祝辞を頂戴いたしました。会員一同これから

も一層の努力と研鑽を胸に誓い厳粛な中に式典を終了。第

二部「漢詩と書の吟詠」の発表です。ホールの両側のパネ

ルに各自の作品、色紙、掛軸、

帖幅額、で展示、賛助作品、

小井土松風、芳泉先生、顧問

西林乘宣先生の作品も加えて、

二十数点、御来場の皆様の日

に、楽しんで頂けた事と思

います。本年度は、お陰さまで

新会員五名の入会があり、日

も浅い新人ですが、初めての

自作漢詩を、解説、吟詠と、

仲々の出来栄でした。会場

のお客様も熱心に聞き入り、

終了迄、一人として席を立つ

方がありませんでした。会長

阿部心靡の吟で、日頃御指導

下さっている、小井土松風先

生作「釣雪」が朗々と詠じら

れ、終了。お帰りの際、楽し

かった!!とのお褒めの言葉を

頂き、一同次回に向け頑張る



ぞ!!と心に誓い散会となりました。学び乍ら古典に触れる楽しみ、文字も美しく、辞書も引く、一石三鳥!!です。是非一度教室に足をお運び下さい。

小野里春子

演 劇

今年度の演目は井上ひさし作「もとの黙阿弥」です。演出がこの作品にひかれるのは面白いからに違いないのですがその面白さは推理小説のそれではなく、周到に用意されたセリフの言い様・かけあい

に秘密があるのです。言いかえれば言葉そのものが読者を虜にするのです。ですから



お繁は主の娘お琴と入れ替り、書生久松は男爵隆次と入れ替る。それぞれが別の人格を演ずることによって互いにちぐはぐなやりとりとなる面白さを見せてくれるのですが、劇の終盤ではお繁は自分に戻れなくなり気のふれたお琴になつてしまふ。この恐怖を目の当たりにして私達は腰を浮かすやもしれませんが、仮に作者に興がのつてここで幕を引かないとすればお繁はまた別の人格に成るかも知れない。本番に向けての役者の変貌を演出は最大の楽しみとしています。

日田 一郎

自然趣味

第四十一回前橋市、前橋市文化協会主催、自然趣味部会の盆栽展も十月十九日から二十一日まで前橋市民文化会館大展示ホールで本年も無事終了することができました。

一時期は百三十席もの展示をすることもありましたが、高齢化が進み、体調を崩した会員も多く、今回は三十二席

の展示となりました。

しかし、何十年という月日を重ねて愛培された会員の作品は個性豊かなもののばかりで上毛新聞社にも紹介をいただき、七百余名の皆様にも盆栽のすばらしさをじっくり鑑賞いただけたと喜んでおります。

本年は特に皐月^{さつき}の作品に立派なものが目立ちました。

また、草木ダムが出来る前に掘り上げた三つ葉つじや真相など人の力では出来ない自然の力がつくるすばらしい作品などが来客の感動をよんでおりました。

閉会式にはご多用中のところ市長にかわりスポーツ観光部川端部長様、清水文化協会長様にご臨席を賜わり心温た



まる励ましのお言葉をいただき、会員一同、感謝と明日への意欲を更に高めることができました。

寫田 浩

民族舞踊

平成30年12月2日(日)

フェスティバルの発表会が昌賢学園まえばしホールで行われました。天候にも恵まれて暖かい一日でした。早いもので9回目を迎え又平成年号の最後の年でもあり、いつもより少し緊張感がありましたが、一年の集大成となる舞台発表

会は13グループが終結し、賑やかさと華やかさがあり又年齢層も子供からシニアまでと見応えがあつたのではと思われまふ。司会の滑らかな曲の情景の説明と色とりどりのドレスとうしろの照明の美しさ、フェニックスの木が一体となった舞台は南国ムード満点の雰囲気でした。出演者も緊張の中にも、慣れた様子で、次から次へと思ひ思ひのドレスを、明るい笑顔で軽やかに踊っている姿は、楽しそうでした。前
半22曲、
10分休憩
を入れて、
後半23曲、
全46曲の、
発表でした。美し
い舞台で、
いつも練習してき
たフラを、
グループの仲間と一緒に踊れるのは、大変うれしく幸せに
思いました。これからも、健康を維持し、楽しんでいきたいと思ひます。又多少の課題は残りましたが来年の発表会は、その他の事も含めて役員一同、協力しながら改善し、向上にむけて努力していきたいと思ひます。最後に、ご協力頂いた皆様、本当にありがとうございました。

吉野 美子

居合道

居合道部会は「ふれあい体験教室」、「まえばし和の文化



の集い」、
「総合文
化祭」の
活動を行
いまし
た。

「ふれ
あい体験
教室」は
六月三日
六日AL
SOK群



馬武道館で行われ、夏の開催
でしたので皆さん汗をかきな
がらの教室になりました。ご
夫婦での参加の方や、中国出
身の方もいました。

実技では居合の型の技に挑
戦してもらい、皆さん熱心に
稽古されたようで「居合つて
以外と体力を使いますね。汗
だくです。」とか「足パンパ
ンです。」とか必死の様子で
した。技の種類とか休憩時
にはハンバーガーを食べながら
の意見交換などした楽しい時
間も過ごし、教室終了時には
参加者全員に修了証授与を行
いました。

十一月十日「まえばし和の

文化の集い」が臨江閣で開催
され、当部会は二回目の参加
となりました。青空のもと紅葉
の始まりの臨江閣は昨年にも
増して気品あるたたずまい
に感じ、その気品をけがさぬ
よう、演武も正座の部より
「前」、抜刀法奥の型より「前
敵逆刀」などの演目を選び、
披露させていただきました。

「総合文化祭」は平成三十
一年一月二十六、二十七日昌
賢学園まえばしホール（市民
文化会館）にて式典、発表開
催され、多くの皆様にお越し
いただきました。

役員、スタッフの皆様方
は大変お世話になりました。
今後共よろしく願ひ申し上げ
ます。一つでも多くの文化
に触れ、活動の糧としたいと
考えております。

吉田 努

将 棋

みなさま初めまして、将棋
部会の石原です。今年度より
本格的な活動を開始させて頂
きました。宜しくお願い致し



ます。

さて、将棋と言うと最近で
は「藤井総太七段」が有名で
将棋に詳しくない方でも彼の
名前を耳にした事があるので
はないでしょうか？これに乗
じて云々かんぬん考えるのは
当然のことだと思えます。
私は前橋で行われる数多く
のイベントに実行委員として
参加させて頂く事が多く、数
多くの皆様特に子供たちへの
普及をしていきたいと考えて
おります。

将棋は歴史ある日本文化の
ひとつであり、礼節や思考す
る癖、また脳の発達、リハビ
リにも良いとされています。
今後の具体的な活動ですが、
私がずっと携わっております

前橋の活性化や子供たちへ向
けた体験型のイベントはもと
より中心市街地のホールや一
室を利用しての将棋教室など
を展開していければと考えて
おります。

昨年度は将棋の最高峰のタ
イトル戦「竜王戦」が前橋市
の臨江閣にて行われ、それに
併せる形で隣接する「るなば
あく」に於いて「るなばde将
棋」と銘打って子供たちや初
心者を対象としたイベントを
行いました。今年度は「昌賢
学園まえばしホール」にて同
様のトークイベントをさせて
頂きました。ホール関係者の
皆様には多大なるご協力を頂
き感謝しております。今後と
も皆様のお力添え宜しくお願
いいたします。

石原 隆行

日本の名曲を踊る

初めまして。前橋市文化協
会に入会させていただきまし
た日本舞踊の正派若柳流「や
なぎ会」です。数十年、古典
をメインに発表を続けてまい



りましたが、ご観覧のお客様
から、「古典もいいけれど難し
い。わかりやすくて馴染みの
ある曲をやってもらえないか」
との要望がありました。それ
以降、古典の後に歌謡曲・民
謡・詩吟等々を組み入れた番
組になりました。時代ととも
に歌謡曲等が受け入れられ、
今はメインになっています。
が、踊り方も振り付けも古典
に基づき九十六才の師匠で芸
歴九十数年の若柳吉駒枝が振
り付けした曲を習っています。
敬老会や施設などから依頼さ
れることが多く、毎週三回の
稽古に、冬でも汗を流して励
んでいます。お客様の心にし
みる踊りをめざしています。

須藤三枝子

支部 だより

大胡支部

平成三十年度

大胡地区文化祭を終えて

平成三十年度の大胡地区文化祭は、総合展示・芸能祭・音楽祭・茶道会・囲碁大会・将棋大会・大胡の歴史にちよつと親しむ史跡めぐりの各部門に分かれて、十月二十六日から十一月十日まで実施されました。

お蔭をもちまして、出演者・来場者合わせて三千三百人以上の参加者があり、多くの関係者の皆様のご支援ご協力のもと、成功裡に文化祭を終えることができましたことにあらためてお礼申しあげます。

文化協会会員をはじめ、た



くさんの園児や児童・生徒・公民館利用団体のほか一般参加の方々が、日頃の成果を表し、地域と園・校の想いをいだいた大胡の特色ある文化祭を共創することができました。

また、各部門の会場設営で

は、参加者一人ひとりの意気込みの中で大変スムーズに準備することができましたこと

に、特に、広い総合展示会場での重い机の運搬や大量のパネル設置など、会場設営にご尽力いただきました赤城少年院の院生と先生方には、心より感謝申し上げます。

今後も、多くの地域の皆様の参加をいただき、文化の和が心と心を結び、豊かで楽しく生き甲斐となることを願いたいと思います。

ご協力いただいた役員並びに関係者の皆さんには深く感謝申しあげ、文化祭終了の報告とさせていただきます。

阿部 淑美

宮城支部

平成三十年度事業活動として、会員相互交流と歴史の勉強として八月二十五日に、栃木県の大谷寺、平和観音、大谷資料館へ行き時代、時代の

探掘の歴史と巨大地下空間を三十名の参加で研修をして来ました。

文化協会の一大イベントである、地区の文化祭を十一月三、四日に秋晴の下に各種団体の協力を得て盛大に行われました。展示部会は団体二十一人、個人三、出品数五四四人、陶芸部、商工会女性部、幼稚園、こども園、小中学校、各デイサービス、公民館利用団体、その他多くの皆様の出品をしていただきました。

芸能発表部会では三十の団体、個人の出演で日頃の練習の成果を多くの来場者皆様の前で和太鼓、八木節、民謡、フラダンス、創作ダンス、歌謡曲、中学生による詩吟などの立派な発表をいただき、拍手喝采をあびていました。これからも、一層の活動を期待しています。

駐車場では模擬店部会の陶芸作品、若葉高等学園の手作りクッキー、ストラップ、宮城福祉作業所の玉菊、パンジー、など販売して盛況でした。今年は地区保健推進員会



役員さんの「健康づくりコーナー」が開かれ、体脂肪、握力測定等、多く人が参加し自分の健康度を確認していました。今年も多くの中学生ボランティアが各係に分かれて協力して運営を盛りあげてくれました。天候にも恵まれあつたという間の二日間でしたが、六月より実行委員会の会議、準備に取りかかり有意義な文化祭が無事終了し感謝しています。

前原 眞一

粕川支部

平成最後の、粕川地区産業文化祭が、十一月四日（日）、粕川小学校校庭と粕小体育館をお借りして盛大に開催されました。粕川公民館では、芸能部門で詩吟・民謡民舞・フラダンス・カラオケ等が実演され、観客の瞳と耳を釘付に致し、粕小校庭では粕川地区を中心とした生産者による、食品・野菜が沢山展示、即売



されました。展示部門では、粕川中、粕川小、月田小の児童生徒の力作絵画が展示され、多数の保護者が鑑賞しました。町内の幼稚園、保育園の園児による絵画や、工作も見事でした。デイスービスを受けている、お年寄りの作品には、観客が感動して居ました。書道を楽しむ方の作品は、毎年充実した素晴らしい作品で、

観客が大勢集まりました。絵手紙サークルの作品は、季節の果物や花等の絵で見事でした。刀剣を、趣味として居る方が、真剣五本を展示して下さり、また、上毛新聞の、過去、約五十年分、粕川地区関係記事の切り抜きを、模造紙に貼付した作品を出展して頂き、大勢の人が鑑賞し懐かし

んで居ました。茶道クラブの協力により呈茶を、今回も実施して頂き多数の来場者（大人から幼児まで）が、お菓子とお茶を堪能し、喜び帰られました。会員の高齢化等で文芸部門は、作品が少ないですが、現在の会員で力作を展示させて頂きました。写真クラ

ブ、水墨画クラブ、手芸クラブの作品にも来場者の眼と心を捉えて居りました。ステージ発表の野外ステージ（粕小校庭）部門では、三番叟保存会の込皆戸操り人形式三番叟が、伝統芸能の素晴らしさを見事に演じて下さり、拍手喝采でした。無事に終了し各々のスタッフに感謝です。

原 与志美

富士見支部

富士見支部の文化祭は十一月二十二・二十三日に開催され、成功に向け各会で積極的な準備がなされました。

スポーツ吹き矢の会では当日、会場入口に風船を飾り、積極的に呼びかけ、八七名の参加者で賑わいました。日常的にも富士見の各地区でスポーツ吹き矢の催しを開き、地域でも活動しています。この文化祭をきっかけに文化協会にも入会しました。

童謡唱歌を楽しむ会では、



ふれあい体験事業で童謡教室を開き、九・一〇月に4回、延べ171名が参加しました。文化祭にこの教室のみんなと舞台上立つことを目標にしました。この後、五名の入会者がありました。

上州赤城太鼓は、長年子ども向け和太鼓講座を開催し、そこから育った小・中・高生、青年とどの年齢層にも会員がいる活気のある会です。二二周年の記念演奏会では、前橋のダンスチームと共演し、視覚にも訴える新しい分野へ挑

戦をしています。

俳句の「木の芽吟社」ではメンバーの減少に歯止めをかけたといと、前もって富士見地区に投句を呼びかけるちらしを配布しました。当日も会場入口でちらしを配り、特大の投句箱を設けるなどして、たくさんの方が集まりました。これからの活躍が楽しみです。

芸能発表会では開始早々から客席が埋まり、最後まで賑わいました。

芸能部門の実行委員反省会では、この成功に力を得て、来年もより良い発表会にしようという活発な意見がたくさん出されました。

白石 博己



平成30年度役員等名簿

名誉会長 山本 龍 (市長)

会長 清水 和夫

副会長 小野 千昭 江原満里子 田中寿々夢 阿部 淑美

前原 眞一 坂本 實 白石 博己

書記 渡辺 正義 及川 清流 井野 誠一 荻野 昇

霜田きよい

会計 西川扇富珠 原 与志美 増村 友美

常任理事 大井美津江 (書道) 郷緒 慶三 (美術) 藤生 武男 (写真)

佐藤 利一 (映像) 田村 理光 (華道) 清水 雪瑠 (茶道)

徳光 秀夫 (音楽) 室賀 孝子 (バレエ) 須藤 幸子 (邦楽)

岩井田みき子 (大正琴) 若柳 糸駒 (日本舞踊) 瀬間 踪心 (吟剣詩舞道)

伊藤 養吉 (民謡民舞) 阿佐美菊男 (八木節) 谷 晃仁 (郷土芸能)

中川 春雄 (歴史) 平山 勇 (短歌) 今井 妙 (俳句)

三村 悦子 (川柳) 阿部 心靡 (漢詩) 小井戸恵子 (演劇)

嶋田 浩 (自然趣味) 吉野 美子 (民族舞踊) 吉田 努 (居合道)

石原 隆行 (将棋) 伊藤ツヤ子 (大胡支部) 北爪 清一 (宮城支部)

諸星 徳治 (粕川支部) 石関 雅幸 (富士見支部) 間庭 淳 (公益財団法人前橋市まちづくり公社)

原田 陽一 (前橋市)

理事 竹内 照代 (書道) 山口 幹雄 (美術) 寺澤 昌佑 (写真)

馬場 秀夫 (映像) 宇田理由美 (華道) 高橋 宗美 (茶道)

石原いく代 (音楽) 黒崎 滋子 (バレエ) 福島 常童 (邦楽)

山本登志子 (大正琴) 若柳 茂駒 (日本舞踊) 高山 龍聖 (吟剣詩舞道)

原田 廣子 (民謡民舞) 中島 俊明 (八木節) 富澤 好克 (郷土芸能)

石綿 正明 (歴史) 岡田 正子 (短歌) 工藤 弘子 (俳句)

大島 祐子 (川柳) 片倉 優水 (漢詩) 日田 一郎 (演劇)

田辺 敏弘 (自然趣味) 新井扶美子 (民族舞踊) 山本 明夫 (居合道)

齋藤 要治 (将棋) 小野 桂一 (大胡支部) 小柴 和子 (宮城支部)

松村喜美子 (粕川支部) 小林 淳美 (富士見支部) 福田 修 (公益財団法人前橋市まちづくり公社)

大嶋 智之 (前橋市)

監事 神保 心祈 (吟剣詩舞道) 鈴木二千六 (民謡民舞) 中村百合子 (大胡支部)

顧問 曾我 孝之 (前橋商工会議所会頭) 中澤 充裕 (元教育長)

佐藤 博之 (前教育長)

塩崎 政江 (教育長) 齋藤 一雄 (株式会社群馬銀行代表取締役頭取)

吉永 國光 (株式会社東和銀行代表取締役頭取) 内山 充 (上毛新聞社代表取締役社長)

武井 和夫 (群馬テレビ株式会社代表取締役社長) 塚越 正弘 (株式会社エフエム群馬代表取締役社長)

田中 義 (公益社団法人前橋市医師会会長) 田口 章太 (一般社団法人前橋市歯科医師会会長)

大塚 隆夫 (J A 前橋市代表理事組合長) 阿久澤和夫 (前橋ユネスコ協会会長)

参与 中島 克人 (前橋商工会議所専務理事) 小林 卓郎 (前橋商工会議所情報メディア部会長)

川端 利保 (前橋市文化スポーツ観光部長)

事務局 原田 陽一 (前橋市文化国際課長) 大嶋 智之 (前橋市文化国際課文化国際係長)

塩澤 典茂 (前橋市文化国際課文化国際係副主幹) 齋木 雄造 (事務局長)

阿佐美和香子 (事務局員) 松本 彩子 (事務局員)

平成30年度賛助会員名簿 (50音順)

法人・企業等	代 表	法人・企業等	代 表
赤 城 フ ー ズ 株 式 会 社	遠山 昌子	中 央 カ レ ッ ジ グ ル ー プ	中島 利郎
朝 日 印 刷 工 業 株 式 会 社	石川 靖	株 式 会 社 東 和 銀 行	吉永 國光
一 線 美 術 両 毛 支 部	高橋留三郎	株 式 会 社 登 利 平	小池 秀雄
株 式 会 社 オ オ タ ヤ	都丸 和俊	な か ぎ と 歯 科 医 院	中里 隆之
カ ネ コ 種 苗 株 式 会 社	金子 昌彦	中 屋 商 事 株 式 会 社	曾我 孝之
関 東 精 機 株 式 会 社	鯨澤 剛史	株式会社 ノブプランニング	町田 栄信
有限会社群馬通信機サービス	新井 紘子	日本ピアノホールディング株式会社	中森 隆利
群 馬 テ レ ビ 株 式 会 社	武井 和夫	星 野 総 合 商 事 株 式 会 社	星野 義夫
群 馬 ト ヨ ペ ッ ト 株 式 会 社	大山 駿作	公益社団法人 前橋市医師会	田中 義
群 馬 日 野 自 動 車 株 式 会 社	中村 丙午	公益財団法人 前橋市観光コンベンション協会	曾我 孝之
ケ ー ビ ッ ク ス 株 式 会 社	井上 哲孝	一般社団法人 前橋市歯科医師会	田口 章太
株 式 会 社 ジ ー シ ー シ	松下 弘明	公益財団法人 前橋市まちづくり公社	静 知明
清 水 農 園	清水 和夫	前 橋 商 工 会 議 所	曾我 孝之
下 田 内 科 医 院	下田 隆也	前 橋 事 務 機 株 式 会 社	秋山 佑馬
学 校 法 人 昌 賢 学 園	鈴木 利定	モ リ タ 印 刷 工 業 株 式 会 社	堤 佳代子
株 式 会 社 上 毛 新 聞 社	内山 充	株 式 会 社 ヤ マ ト	町田 豊
上 毛 電 業 株 式 会 社	狩野 明	株式会社 ユニバースサイン	伊藤 佳明
昭 和 造 園 土 木 株 式 会 社	石橋 照夫	医 療 法 人 吉 野 医 院	吉野 昭男
株 式 会 社 ジ ン ズ	田中 仁	若 宮 内 科	山田 邦子
青 南 社	金子 侑司		(敬称略)

賛助会員を募集しています

本協会事務局へお電話、FAX、メールによりお問い合わせください。

〒371-0805 前橋市南町三丁目62-1 昌賢学園まえばしホール（前橋市民文化会館）内

電話 027-289-6521 FAX 027-289-6531

ホームページ内の「お問合せフォーム」(<https://maebunka-k.jp/>)

E-mail maebunka@maebunka-k.jp



2019年度 第42回前橋市民芸術文化祭開催予定一覧

No.	事業名(部門)	期 日	時 間	会 場
1	華道展	4月20日(土)～ 4月21日(日)	9:50～	昌賢学園まえばしホール (市民文化会館)大・小展示ホール
2	邦楽のつどい	5月11日(土)	12:30～	昌賢学園まえばしホール (市民文化会館)小ホール
3	大茶会	5月19日(日)	10:00～	臨江閣、庭園エリア茶室
4	市民川柳大会	5月25日(土)	10:00～	昌賢学園まえばしホール (市民文化会館)第5会議室
5	歴史講演会	6月1日(土)	13:30～	第三コミュニティセンターホール
6	市民短歌大会	6月9日(日)	10:00～	中央公民館501・502学習室
7	ビデオ作品発表会	6月30日(日)	13:30～	群馬会館ホール
8	市民俳句大会	6月30日(日)	13:00～	前橋市総合福祉会館多目的ホール
9	民謡民舞発表会	7月7日(日)	10:00～	昌賢学園まえばしホール (市民文化会館)大ホール
10	八木節のつどい	9月15日(日)	10:00～	昌賢学園まえばしホール (市民文化会館)大ホール
11	吟剣詩舞道発表会	10月13日(日)	13:00～	昌賢学園まえばしホール (市民文化会館)大胡シャンテマルエホール
12	日本舞踊のつどい	10月20日(日)	13:00～	昌賢学園まえばしホール (市民文化会館)小ホール
13	自然趣味盆栽展	10月25日(金)～ 10月27日(日)	9:00～	昌賢学園まえばしホール (市民文化会館)大展示ホール
14	趣味の彫塑工芸絵画展	11月1日(金)～ 11月3日(日)	9:00～	昌賢学園まえばしホール (市民文化会館)大展示ホール
15	前橋バレエフェスティバル	11月17日(日)	13:30～	昌賢学園まえばしホール (市民文化会館)大ホール
16	郷土芸能大会 ※1	11月23日(土)	12:40～	昌賢学園まえばしホール (市民文化会館)小ホール
17	市民音楽のつどい	11月24日(日)	12:30～	昌賢学園まえばしホール (市民文化会館)小ホール
18	漢詩発表会	11月24日(日)	13:30～	第三コミュニティセンターホール
19	短歌・俳句・川柳合同作品展	11月30日(土)～ 12月1日(日)	9:00～	昌賢学園まえばしホール (市民文化会館)大展示ホール
20	フラ フェスティバル	12月1日(日)	12:30～	昌賢学園まえばしホール (市民文化会館)小ホール
21	演劇発表会	12月15日(日)	未定	昌賢学園まえばしホール (市民文化会館)小ホール
22	市民展覧会 ※1 (美術)(写真)(書道)	1月～3月		
23	総合文化祭 (地域文化フェスティバル)	舞台:2020年2月2日(日) 展示:2020年2月1日(土)～2日(日)		昌賢学園まえばしホール(市民文化会館) 大ホール大・小展示ホール
24 ※2	・大胡地区文化祭 ・宮城地区文化祭 ・粕川地区産業文化祭 ・富士見地区文化祭	10月25日～11月9日(土) 11月2日(土)～3日(日) 11月3日(日) 11月12日(火)～23日(土)		大胡体育館、前橋市民文化会館大胡シャンテマルエホール 宮城公民館 粕川公民館、粕川小学校 富士見公民館、ふじみ老人福祉センター

*上記日程は平成31年3月31日現在のものです。都合により、開演時間等が変更になる場合があります。

(※1 前橋市教育委員会共催事業 ※2 各地区実行委員会主催事業)

読売新聞社賞 夏を惜しむ エフエム群馬賞 哀愁 群馬県教育振興会長賞 自我像 優作賞 塔のへつり 優作賞 寂寥・冬の旅 優作賞 枯葉 優作賞 座像 優作賞 晩夏のざわめき 優作賞 待春 優作賞 初心 1992 優作賞 何を見てるの 優作賞 自画像 優作賞 モンマルトルの休日 優作賞 薬と瓜 奨励賞 谷川の見えるふる里 奨励賞 まなざし 奨励賞 コンニャクの木 奨励賞 婦人像 奨励賞 想いに馳せる 奨励賞 里山の夏 奨励賞 ねぎぼうず 奨励賞 遅い春	花坂 亜美 池尾 優璃 坂部 潤 永井 適 鈴木 安則 蚊爪 駿 横室 敏夫 大野 昭子 岡安 彪 古島 美樹 檜谷 安紀 堀 智子 網野 宏 新井須美江 志藤 春江 久永 宏子 北爪ひろ子 藤野 春雄 鈴木 信義 鈴木 信義 鈴木 信義 町田わか子 高橋 義雄	奨励賞 地球を絞ってみた 奨励賞 ひまわり三兄弟 奨励賞 異国の路地 奨励賞 古の栄華を残して(エフェソス) 奨励賞 出窓 奨励賞 片隅にて 奨励賞 妻の遺しモノ 奨励賞 on the check cloth 奨励賞 バラ 奨励賞 うたごえ 奨励賞 ブロッコリーとゆず 奨励賞 アトリエで 奨励賞 廃積の図 奨励賞 ぐみ 奨励賞 存在 奨励賞 トポロジーとネットワーク 奨励賞 梅笛伝承の師 奨励賞 ぶどう畑 奨励賞 秋彩の尾瀬 奨励賞 煌めきの瞬間 奨励賞 渡り蝶	中村 智哉 長瀬 卓司 糸井 晃美 渋川貴美子 藤澤 衛 佐藤 淑子 黒田 平吉 原田 衣 金古 伸子 渡邊 正男 丸山 和子 松本美恵子 八木原 操 湯浅 玲子 小坂橋良江 加藤 淳一 都丸 丈松 宮崎亜紀子 青木 道雄 藤井さち子 山口 京子
---	---	--	---

臨江賞 白い花達 臨江賞 まっ白谷川岳 無鑑査賞 赤城姫 無鑑査賞 景	小林 綾子 根岸佐久二 奥野 まさ 橋元 恵子
--	----------------------------------

第三部 彫刻・工芸 知事賞 丸盆「結」(鉄線編底・二重輪口) 市議会議長賞 アマリス 産経新聞社賞 ハルシネイション 優作賞 オーム 優作賞 ひといろ、色々 奨励賞 桂林 奨励賞 深海 奨励賞 梅しぐれ 奨励賞 マルチバース 奨励賞 松扇一輪 臨江賞 辰砂壺 無鑑査賞 群る	千木良 充 日詰 裕子 大條八重子 大原 利子 和田 玲子 篠澤 茂勝 井野 正江 市川 初枝 稲葉 泰典 光富 陽子 金井 春男 江黒 良子
---	--

前橋商工会議所会頭賞 静寂 群馬テレビ賞 水結 東京新聞賞 春の滝 読売新聞社賞 霧景 エフエム群馬賞 惜春 群馬県教育振興会長賞 厳冬風景 優作賞 錦秋の水鏡 優作賞 海中の鳥居 優作賞 静けさに落ちる 優作賞 秋の残月 奨励賞 朝陽を浴びて 奨励賞 お洒落な鏡 奨励賞 水鏡 奨励賞 天高く 奨励賞 黎明 奨励賞 時を閉じ込めて 奨励賞 ブナの息吹 臨江賞 満開	室田 佳子 清水 保宏 加藤 武男 松尾 則子 星野 卓次 宝田 好夫 藤川 敏枝 近藤みどり 今井 允 神垣 義行 高橋 清 石綿つね子 木下 正夫 金井 文江 前野 龍一 難波 秀夫 山本 秀夫 藤井 正彦
--	--

優作賞 凛と 奨励賞 森の妖精 奨励賞 ゆらりーゆらり 臨江賞 紅葉かつ散る池 無鑑査賞 シンクロナイズドスイミング	平間 大心 黒岩美紀子 羽鳥 等 薊 金一 瀬間 昭美
---	---

写真部門

第一部 風景・ネイチャー 知事賞 光芒の溪流 市議会議長賞 秋光 市文化協会会長賞 月照	松下 進 遠藤 勲 石田 誠一
--	-----------------------

第二部 花・動植物

市長賞 富士を背に 市教育長賞 “つ”はこれですか? 朝日新聞社賞 温もり 優作賞 寄り添いながら	豊嶋啓一朗 鯉沼 麻美 齋藤 好司 中里 雅重
--	----------------------------------

第三部 スナップ・人物

市民展賞 夏祭りの子 県教育長賞 火渡り 上毛新聞社賞 苦難に耐えた球児 産経新聞社賞 命中 毎日新聞社賞 「どこ行くの?」(スペイン) 企業メセナ群馬賞 吉日 優作賞 古刹巡り 優作賞 湿原の夏を行く 優作賞 明日ヘジャンプ! 奨励賞 尾島のネプタ 奨励賞 ひなたぼっこ 臨江賞 熱闘 無鑑査賞 ボールプールにうもれて	船戸 作司 梅澤 祐一 宮下 健一 牛込 善衛 木部日出雄 反町 雅也 田村 誠 倉林 義雄 田村 優空 元花 義昭 木暮 修司 中島 祥博 並木 史一
---	--

市民展53回 市民展賞作品

市民展賞

書道



「なにとなく」
青木玉枝さん

美術



「水たまり」
石川朱音さん

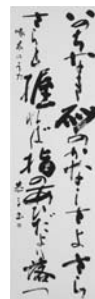
写真



「夏祭りの子」
船戸作司さん

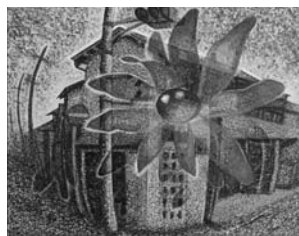
市民文化協会会長賞

書道



「短歌 石川啄木のうた」
櫻井恭子さん

美術



「花と街角」
福島志津代さん

写真



「月照」
石田誠一さん

お知らせ

このたび下記の方々が栄誉を受けました。ここに紹介しお祝い申し上げます。今後、益々のご活躍を祈念いたします。(敬称略)

※群馬県文化奨励賞

及川 清 (本部：邦楽部会)
片倉 順子 (漢詩部会)
佐田 陽子 (パレエ部会)
田村 光子 (華道部会)

※前橋市教育文化功労者表彰

岡庭 修二 (書道部会)
吉澤 信明 (歴史部会)

※前橋市社会教育活動功労者表彰

大島 祐子 (川柳部会)

新入会員紹介 ～平成30年度加入～

邦楽部会 古曲時習会 代表者 内山 信一 (H30.6～)
恵玉まゆの会 代表者 富田恵理子 (H31.3～)

バレエ部会 YUKI BALLET 代表者 平井 有紀 (H30.7～)

民謡民舞部会 西馬音内盆踊り保存愛好会 代表者 藤巻 睦子 (H30.7～)

宮城支部 ひふみ会 代表者 六本木とし (H30.7～)

大胡支部 英美舞会 代表者 吉田 英子 (H30.10～)
日舞の会 代表者 須永 麻子 (H30.10～)

音楽部会 コーラス・パレツツ 代表者 安孫子智子 (H30.12～)

日本の名曲を踊る部会 代表者 若柳吉駒枝 (H30.11～)

富士見支部 富士見スポーツウェルネス吹矢 代表者 山崎 昇 (H31.3～)

編集後記

本年度四月前橋市文化協会事務局は、昌賢学園まえばしホール(市民文化会館)内二階に新たにオープン致しました。今回の比刀祢は清水会長の巻頭言をいただき、その特集として座談会を実施致しました。市民芸術文化祭をはじめ様々な行事を滞りなく終了できたのが嬉しく思います。会報編集委員になり一年目です。宜しく願い致します。

今井 妙

比刀祢

(六五号)

平成三十一年三月二十二日 印刷
平成三十一年三月三十一日 発行
発行 前橋市文化協会
編集 会報(比刀祢)編集委員会
前橋市南町三十一番六二一
電話〇二七―二八九―六五二二
(市民文化会館内)
印刷 朝日印刷工業株式会社

会報(比刀祢)編集委員
委員長 田中寿々夢
副委員長 山口タツ子
委員 諸星秋雄 三村悦子
今井 妙

通帳レスをはじめよう！ ぐんぎんWEB口座

「ぐんぎんWEB口座」は、紙の通帳を発行しない

個人のお客さま向け預金口座です。

紙の通帳を発行しない代わりに、

《GBダイレクト》インターネットバンキング等を

利用して、残高や入出金明細を

ご確認ください。



通帳の
記帳や繰越が
不要！



紛失・盗難の
心配なし！



環境に
やさしい！

詳しくは
こちらから



お問い合わせ
群馬銀行
ダイレクトセンター



0120-13-9138

受付時間 9:00～20:00(土・日・祝休日、12/31～1/3を除く)



あなたの夢、応援します
群馬銀行

(2018年11月1日現在)